

# 生活の中で確実に数的処理ができる子

— 具体的場面での金銭指導を通して —

橋 本 浩 之

## 1. 対象児のプロフィール

生徒名 H・Y (女) 昭和46年12月27日生 (中学部2年、就学猶予1年)

IQ 57 (言語性 53、動作性 70、WISC-R)

八頭郡K小学校より本校中学部に入学。 児童福祉施設より通学。

### (1) 一般的特性

- 心が優しく、他人の世話が好きだが、反面、自分のことがおろそかになる。
- 15才の女子として標準的な体格で、健康上の問題もないが、耳が少し聞こえにくい。
- 言語的能力は、小学校3年生程度の力がある。しかし、数的処理能力は小学校1年生程度の力しかない。

### (2) 問題点と研究に取り上げた理由

H子は、身辺処理が雑ではあるが、ほぼ自立し、作業能力・作業態度に関してもかなり高いことから、将来の職業生活・社会的自立が期待される。そして、それに見合う意思伝達能力を持ち、社会生活に支障がない程度、文字の読み書きも出来るが、それに比べて、数的処理能力が劣り、特に金銭の処理がうまくできない。

現在、H子は児童福祉施設に入所しており、金銭を扱う機会がどうしても少なくなるため、上記の研究テーマを設定し、H子の金銭処理能力を高めるための指導を試みた。

## 2. 個人目標の設定と研究方法

### (1) 個人目標の設定

上記の問題点から、個人目標を『お金の計算が確実にできる子』と設定した。

### (2) 研究の方法

H子の個人目標達成のため、次のような研究仮説をたてた。

『基礎計算力を育成すると共に、具体的場面で実際に金銭を用いた練習をくり返し行えば、H子の金銭処理能力は、生活の中で「生きて働く力」として育成される。』

そして、この仮説にもとづき、次の指導方針をたて、実践することにした。

- |                       |                                    |
|-----------------------|------------------------------------|
| ① 基礎計算力を育成するために——     | 毎日の課題を中心としたドリル学習の指導                |
| ② お金の計算力を育成するために——    | 数学の時間における個別学習                      |
| ③ 具体的場面を設定した金銭処理の練習—— | ⑦農園の収穫物の販売を通して<br>——⑧買い物ごっこの学習を通して |
| ④ 実社会の中で経験を重ねる ——     | 校外学習の際の買い物                         |

### 3. 授業の構成と指導の手だて

#### (1) 授業の構成

本研究における指導内容は、その性格上、個別指導が重点となる。幸い、本学級は、2名の教官に3名の生徒という小人数の学級であるため、数学・生活単元の学習でも、一斉に指導しながらも、絶えず個別の配慮をこころがけてきた。

また、H子は通学バスの関係で、朝は始業より30分早く登校し、放課後も下校までに1時間の時間があるので、その時間は個別指導の時間にあて、上記のように、授業時間外も指導の時間として設定した。

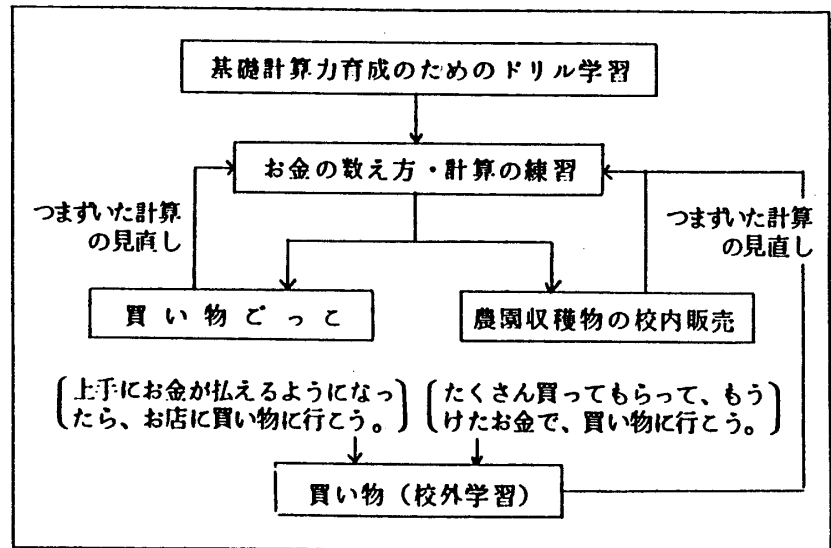
	指導内容
始業前 (30分)	・前日の課題の採点・訂正 ・つまづいた問題の説明
授業 ・数学 ・生単	・お金の数え方・計算の練習 ・買い物ごっこ ・校外学習の際の買い物
放課後 (1時間)	・農園の収穫物の校内販売 ・お金の数え方・計算の練習
帰宅後	・課題の学習

#### (2) 指導の手だて

指導にあたっては、特に次の点に配慮した。

- ① スモールステップで、少しずつ時間をかけて指導する。
- ② 施設生活から生じる経験不足を補うため、実生活に即した場を設定して指導する。
- ③ H子が、興味を持って意欲的に学習と取り組めるよう工夫する。

なかでも③については、H子が、校外での買い物をとても楽しみにしているため、右図に示すように全ての取り組みを校外での買い物に結びつけて構成した。そして、買い物ごっこ・農園収穫物の販売については〔〕内に示したような意欲づけを行った。



### 4. 指導実践例

#### (1) 数学の時間における指導

- ① 数学の時間には、毎時間、授業の前半で、お金の数え方、計算の仕方を個別の指導に心がけながら練習し、後半には、その時間に練習した事柄をもとに、必ず買い物ごっこを行った。

次に示すのは、単元『買い物ごっこ』の指導計画である。

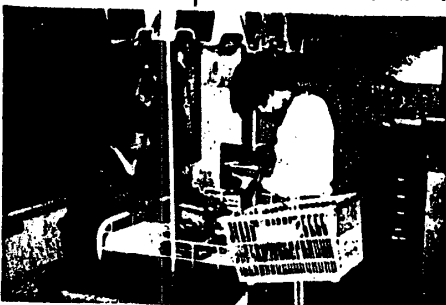
第一次 1種類の硬貨を使った買い物をしよう (5月～9月)

○ 10円単位      ○ 100円単位

第二次 2種類の硬貨を使った買い物をしよう (10月)

第三次 3種類の硬貨を使った買い物をしよう (11月)

② 買い物ごっこの学習のパターン、日子の実態は、次に示す通りである。

学習活動	日子に対する手だて	H 子 の 様 子																								
①示された硬貨の金額を考える。	①・実物の硬貨を用いて、実生活に即した学習となるようにする。 ・目盛りを入れた短冊(右図)を用いて、お金を数えやすくする。 ・正しく出来た場合には、十分賞讃を与える。 <table border="1" data-bbox="766 392 917 694" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">6円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)</td> <td style="text-align: center;">(10)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> </tr> </table>	4	2	6円	(100)	(10)	(1)	(100)	(10)	(1)	(100)	(10)	(1)	(100)	(10)	(1)	(100)	(10)	(1)	(100)	(10)	(1)	(100)	(10)	(1)	①・まず、硬貨の種類分けをする。硬貨の種類は全て知っており、容易にできる。 ・百円・十円・一円硬貨がそれぞれ9個以下の場合には、1000円以下の金額を確実に数えることができる。 ・五十円・五円硬貨が含まれると、間違えることが多い。 ・等価関係はほぼ確立しているが、実際の計算の中では、整理するのに時間がかかる。
4	2	6円																								
(100)	(10)	(1)																								
(100)	(10)	(1)																								
(100)	(10)	(1)																								
(100)	(10)	(1)																								
(100)	(10)	(1)																								
(100)	(10)	(1)																								
(100)	(10)	(1)																								
②示された金額だけ硬貨を出す。	②・①で用いた短冊を使って、確かめをさせる。	②・金額を口頭で示すと、お金を数えている間に忘れてしまいやすい。数字で示してやると、正確さが増す。 ・五十円・五円硬貨は、ほとんど使わずに硬貨を出す。																								
③買い物ごっこをする。	③・買い物ごっこに期待をもたせるため、商品は毎回変える。特に、お菓子等を準備する。 ・教師1名がお店屋さんになり、他の1名が生徒側につき、補助する。 ・1品の買い物ができたら一定の金額内で、2品・3品の買い物をさせる。 	③・お菓子を商品にした時が、一番意欲的に買い物ごっこと取り組める。 ・一定の金額内で自由に数品を買わせる場合は、少し慣れて来ると、限度額いっぱい組み合わせを考えて買うようになった。 ・スモールステップで指導したため、間違えることは、ほとんどなかったが、「本当にこれでいいですか？」と尋ねると、いつも自信なげだった。																								
④反省をする。	④・つまづいた事例をもう一度考えてみる。	④・机上では、いつも正しく計算できた。																								

### ③ 買い物ごっこにおける日子の変容と問題点

買い物ごっこの学習を通して、示された金額だけお金を並べることに関しては、かなり上達したと言える。また、手持ちの金額を考慮して商品を選ぶことも出来るようになった。

しかし、実社会での買い物のほとんどは、おつりをもらう買い物であるにもかかわらず、本単元では、そのような場面を設定できなかったことが問題点として残った。

### (2) 農園収穫物の校内販売を通じた指導

① 本校中学部には、学部の農園と学級農園があり、子ども達が世話をしている。そして収穫物の一部を校内の先生方に販売することにし、次の手順に従って校内販売の学習と取り組んだ。

- ㊦ 収穫物に値段をつける。(計量して袋詰めをする)
- ㊧ 放課後の時間を利用して、校内の先生方に販売する。
- ㊨ 買ってもらった先生・数量・値段を販売ノートに記入する。
- ㊩ 一日の売り上げを計算し、お金を数える。

以上の手順に従い校内販売の指導をしたが、買い手との対応は主として日子にさせ、買い手の先生には、あらかじめお願いして、こちらが意図するやりとりをしてもらった。

② 次に示すのは、5月と11月の販売事例の一部である。

	販売価格	販売事例	正・誤及び日子の計算の仕方
5月	・えんどう豆 1袋 30円 ・玉ねぎ 1袋 50円	(1) えんどう1袋と玉葱1袋 (2) 玉葱2袋 (3) えんどう2袋	(1) ○ 30円と50円で80円。 (2) × 50円と50円で…わからない。 (3) ○ 30円と30円で60円。
11月	・大根 大… 30円 小… 20円 ・ほうれん草 … 20円 ・ブロッコリ … 40円	(1) 大根(大)を3本 (2) 大根(大)を5本 (3) 大根(大)を2本と ほうれん草1束 (4) 大根(大)を2本と ブロッコリ1個 (5) 100円で大根(大)を 買えるだけ	(1) ○ 30円と30円で60円。60円と30円で90円 (2) × 大根が3本で90円。 4本だと90円と30円で102円。 (3) ○ 大根が2本で60円。60円と20円で80円。 (4) ○ 大根が2本で40円。40円と40円で80円。 (5) × まったくわからない。

③ 校内販売の事例から、次の点が考察される。  
○ 5月段階では操り上がり計算が不確実である。  
○ 先生を相手にした販売は、極度の緊張場面であると考えられ、可能な計算も出来ていない。  
○ 日子は簡単なかけ算は可能だが、全く使えていない。日子のかけ算は、まだ生活の中で生かせる程、定着していない。



野菜の校内販売をする日子

## 5. 考察と反省

日子の金銭処理能力の育成を図るため、可能な限り具体的な場面を設定して、実際的な操作を通して指導してきたつもりである。また、ここには挙げなかったが、実社会での金銭処理を経験させるため、校外学習を計画して、商店に買い物に行ったり、レストラン等の利用もしてきた。確かに日子の金銭処理能力は、年度当初に比べて、いくらか向上したと言える。しかし、それは主に「お金を正しく数える能力」の向上であって、「日子が将来、不自由なく買い物できるように」というねがいは、あまり近づけなかったように思う。

取り組みを振り返って、やはり日子に一番欠けていたのは、実社会での経験であったと思う。そのため、買い物に対して自信がなく、極度に緊張してしまい、学校では可能なお金の計算も商店では出来ないことが多かった。更に実社会での経験を重ね、買い物に慣れさせる必要があると思う。

## 6. 今後の課題

今後も大筋として、本研究の手だてを継続していきたいと思うが、特に、校外での実際の買い物を多く経験させることで、更に実生活に密着した取り組みとしていきたい。そうすることで、日子が実際の買い物の際の緊張を緩和し、自信を持って、落ち着いてお金の計算ができるようにしていきたいと考える。